

## 協議事項ア 本市における介護保険サービスの現状について

### < A 委員 >

本市の健康指数が低迷しており要支援・要介護認定数も増加傾向にあることが理解できた。

フレイル予防については主に「つどいの場」を周知啓発に活用するのも良いのではと考える。

介護をする世代は幅広いことを想定すると、「つどいの場」は65歳以上を対象としており、第2号被保険者向けの健康周知やフレイル予防についても企業向けの周知啓発などもあって良いのではと考える。

フレイルという言葉と内容を同時に周知させるのが困難であれば、マルトのお弁当やお惣菜の名前なども、もっと親しみやすい分かりやすい言葉で掲示してもいいのではないかと個人的には思っています。

### < B 委員 >

「つどいの場」は、フレイル、介護予防活動の場として、重要である。

しかし、新型コロナ感染状況から活動が自粛となり、その後、開催に至っても感染を恐れる方が多く増えていない。

また、参加者が年々減っている。立上げ当時の参加者が高齢化により足腰が弱り会場まで来られなくなり、新たな参加者の募集もしないことから減少し続けている。

四倉地区「新町いきいきサロン」では、行政区から負担金をとり、区長・民生委員が参加し地区内の高齢者の情報交換の場ともして、亡・新年会時には活動終了後、ゲーム・弁当配布などで多くの方々と交流・参加しやすい場を提供している。

なお、「つどいの場」代表、「地区社会福祉協議会」「区長会」会長の立場から、令和5年度3月に、「つどいの場」の内容・開催場所・年間予定表を明記し、近くの「つどいの場」への参加を知らせる回覧を発行する予定です。

## < C 委員 >

本市におけるフレイルの認知度が県平均より低いことについては、つどいの場などに参加する方がいつも同じ顔ぶれであり、これまでに啓発出来なかった年代などに広く周知する為の取り組みがコロナ禍ということもあり少なかったのではないかと考える。

また、認定率が高いことについては、ケアマネジャーとして利用者様に関わる中で、高血圧と分かっているながらも数年放置し、脳血管疾患となり介護認定を受ける方も多いと感じる。

また、糖尿病からの透析患者も多く、お話を聞く中で運動機会が殆どなかった。味の濃い食事を好むなど一定の理由があると感じる。

心不全の兆候を示す方も多く、いわき市心不全多職種連携研修会 2021 にて、いわき市医師会より「心不全パンフレット」「心不全手帳」「血圧測定、体重測定の注意点について」の利活用についてご教授頂き、いわきケアマネ協会理事より協会員に周知した。また、いわきケアマネ協会主催により、いわき市医療センター看護部 慢性心不全看護認定看護師さんから心不全について研修を受け、心不全の兆候に気が付く為にどうすべきかなどポイントや方法の研修を受け、ケアマネジャーが訪問した際にお話ししている。(すべてのケアマネが実施しているわけではない) まずは、身近な所から、時間がかかっても継続して、フレイルや高齢者に多い疾患などについて予防法を含む話しをすることで健康寿命を意識した生活行動に繋がるのではないかと考える。

## 協議事項イ 第10次高齢者保健福祉計画の策定に向けたアンケート調査について

### < A 委員 >

市独自の介護援専門員へのアンケート調査に興味があります。独居（主介護者が別宅）や老老介護は業務でもよく課題にあがっています。

ヤングケアラーも学業や就業への影響が懸念される場所ではありますので、アンケートの回収率が良くなるように周知を図っていただければと思います。

### < B 委員 >

アンケートの文字の大きさが読みやすい。

問16～のケアマネジャーのアンケート内容に、利用者本人、家族よりパワーハラスメントや暴力、暴言、威圧的な態度・行動をされたことがありますか？それについて解決しましたか？解決されませんでしたか？と内容を追加してはどうか。実際、認知症があっても、なくても利用者本人よりご家族への対応を悩むことも多い。相談出来ず抱えているケアマネジャーもいるかもしれない。

相談先があっても解決されないことも多くケアマネジャーが強くストレスを感じる要因になっている可能性がある。